

製品名: IL-1 β ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12530**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:100-1:300,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	17kDa

抗原情報

遺伝子名	IL1B
別名	IL1B; IL1F2; Interleukin-1 beta; IL-1 beta; Catabolin
遺伝子 ID	3553.0
SwissProt ID	P01584
免疫原	抗血清はヒト IL1B の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 181-230

背景

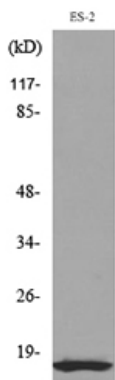
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、インターロイキン 1 サイトカインファミリーの一員です。このサイトカインは活性化マクロファージによってプロタンパク質として産生され、カスパーゼ 1 (CASP1/ICE) によって活性型へとタンパク質分解されま

す。このサイトカインは炎症反応の重要なメディエーターであり、細胞増殖、分化、アポトーシスなど、様々な細胞活動に関与しています。中枢神経系 (CNS) におけるこのサイトカインによるシクロオキシゲナーゼ 2 (PTGS2/COX2) の誘導は、炎症性疼痛過敏症に寄与することが分かっています。この遺伝子と他の 8 つのインターロイキン 1 ファミリー遺伝子は、染色体 2 上でサイトカイン遺伝子クラスターを形成します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン:IL-1 前駆体間の類似性は、これらのタンパク質のアミノ末端が、まだ定義されていない何らかの機能を果たしていることを示唆しています。機能:活性化マクロファージによって生成される IL-1 は、IL-2 の放出、B 細胞の成熟と増殖、および線維芽細胞増殖因子の活性を誘導することにより、胸腺細胞の増殖を刺激します。IL-1 タンパク質は炎症反応に関与し、内因性発熱物質として同定されており、滑膜細胞からのプロスタグランジンとコラーゲナーゼの放出を刺激することが報告されている。オンライン情報:インターロイキン-1 エントリ,オンライン情報:シンガポールヒト変異および多型データベース,類似性:IL-1 ファミリーに属する。細胞内局在:前駆体配列に特定の疎水性セグメントが欠如していることから、IL-1 は損傷細胞から放出されるか、他の分泌タンパク質とは異なるメカニズムで分泌されることが示唆される。サブユニット:モノマー。、

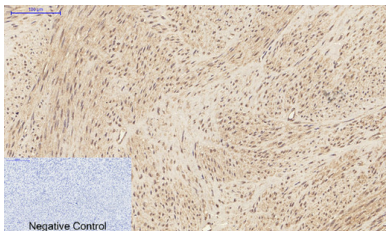
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;アポトーシス抑制;ミトコンドリアアポトーシス;アポトーシスの概要;Toll_Like;NOD 様受容体;細胞質 DNA 感知経路;造血細胞系譜;I 型糖尿病;アルツハイマー病;プリオン病;移植片対宿主病;

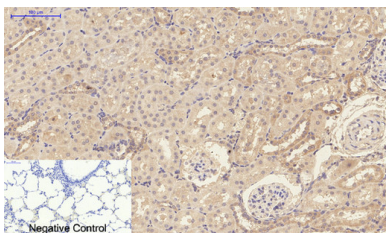
画像データ



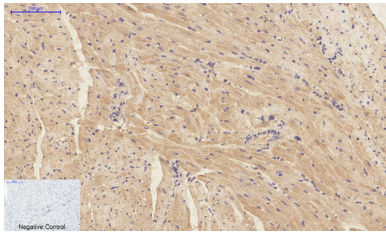
IL1B 抗体を使用した ES-2 細胞の溶解液のウエスタンブロット分析。



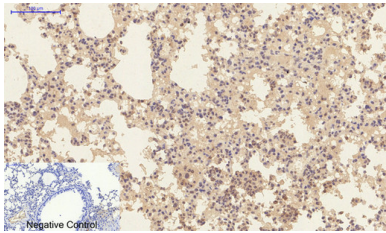
パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. IL-1 β ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



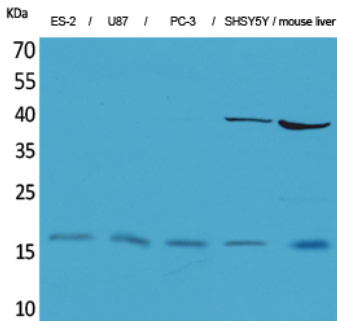
パラフィン包埋ラット肺組織の免疫組織化学染色。1. IL-1 β ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



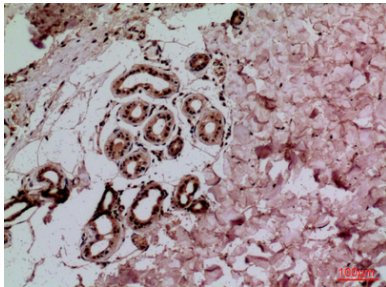
パラフィン包埋マウス心臓組織の免疫組織化学染色。1. IL-1 β ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



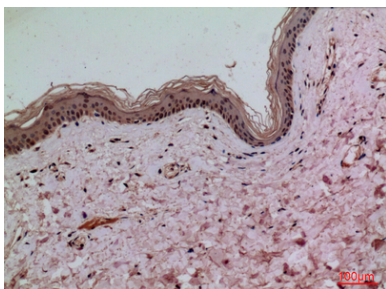
パラフィン包埋マウス肺組織の免疫組織化学染色。1. IL-1 β ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



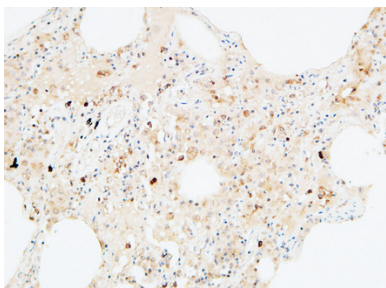
IL-1 β ポリクローナル抗体を用いた ES-2、U87、PC-3、SHSY5Y マウス肝細胞のウェスタンブロット解析。抗体は 1:2000 に希釈した。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト皮膚の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト皮膚の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト肺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。

